

セト研の創立とその後の歩み

平口 哲夫（金沢医科大学名誉教授）

日本セトロジー研究会第27回（寺泊）大会

公開特別講演3

2016年6月25日（土）

長岡市寺泊文化センター“はまなす”

シンポジウム「日本海と鯨類」1988

Part1 2月2日 七尾市民会館
特別記念講演1 C.W.ニコル氏
「鯨取りたちよ、話を聞かせてくれ」



シンポジウム「日本海と鯨類」1988

Part1 12月2日 七尾市民会館

特別記念講演2 鴨川シーワールド館長 鳥羽山照夫氏
「海の友イルカ:その可能性を探る」



シンポジウム「日本海と鯨類」1988

Part2 12月3日 のとじま臨海公園石川県漁業センター



特別講演

南京師範大学教授 周開亜氏

「中国長江産淡水イルカについて」

シンポジウム「日本海と鯨類」1988

Part2 12月3日 のとじま臨海公園石川県漁業センター



コメンテーター

筑波大学医療技術短期大学部
神谷敏郎氏

シンポジウム「日本海と鯨類」1988

Part2 12月3日 のとじま臨海公園 石川県漁業センター



基調講演

金沢大学名誉教授

日本セトロジー研究グループ代表 山田致知氏

「能登を中心とした現生鯨」

シンポジウム「日本海と鯨類」1988

Part2 12月3日 のとじま臨海公園 石川県漁業センター

- 報告1 金沢大学教授 かせ野義夫氏
「日本海のおいたちと海生哺乳類」
コメンテーター
石川県教育センター 松浦信臣氏
横浜国立大学教授 長谷川善和氏
- 報告2 金沢大学教授 矢島孝昭氏
「日本海の漂着生物と環境」

シンポジウム「日本海と鯨類」1988

Part3 12月4日 能都町社会福祉会館



講演1

水産庁遠洋水産研究所所長

大隅清治氏

「クジラと人間」

講演2

金沢医科大学助教授

平口哲夫

「縄文時代のイルカ漁」

セト研会員名簿19881130

解剖学関係7名

- 神谷敏郎(筑波大学
医療技術短期大学
部)
- 川井克司(金沢大学
医学部解剖学)
- 児玉公道(金沢大学
医学部解剖学)
- 岡本圭史(金沢大学医
学部解剖学)
- 関谷伸一(犀潟リハビリ
テーション学院)
- 山田致知(金沢大学医
学部解剖学)
- 山田 格(新潟大学医学
部解剖学)

セト研究会員名簿19881130

海洋生物学・水産学関係2名

- 本間義治(新潟大学理学部付属臨海実験所)
- 中村 泉(京都大学農学部付属水産実験所)



日本海セトロロジー研究会第10回大会
1999年7月17日 金沢医科大学
(当時の所属:新潟大学医学部第三解剖学)

セト研会員名簿19881130

水族館関係12名

- 相原 節(のとじま臨海公園水族館)
- 池口新一郎(のとじま臨海公園水族館)
- 池口 潮(のとじま臨海公園水族館)
- 川淵 忍(のとじま臨海公園水族館振興協会)
- 長岩直志(のとじま臨海公園水族館)
- 中村幸弘(上越市立水族博物館)
- 荻野こう(彡に光)太郎(のとじま臨海公園水族館)
- 齊藤 豊(のとじま臨海公園水族館)
- 坂下裕美(のとじま臨海公園水族館)
- 桜井一男(のとじま臨海公園水族館)
- 佐野 修(金沢水族館)
- 佐々木秀之(金沢水族館)

セト研会員名簿19881130

地学・古生物学関係3名

- 畑中つとむ(文に心)(七尾市石崎町香島中学校)
- かせ(糸に白)野義夫
(金沢大学理学部物理地学)
- 松浦信臣(泉丘高校)

セ卜研究会員名簿19881130

考古学関係1名

- 平口哲夫(金沢医科大学人文科学)

セト研会員名簿19881130 エッセイスト・ジャーナリスト2名

● 国本昭二(エッセイスト)

● 米田 満(北國新聞社)



セト研第10回(内灘)大会
1999年7月18日 金沢医科大学
(当時の所属:文化の中に潜む数学を探る会)



セト研第19回(金沢)大会
2008年6月14日 KKRホテル金沢

日本鯨類学の系譜

- 1. 解剖学：小川鼎三(『鯨の話し』中央公論社、1973)→山田致知・神谷敏郎(『鯨の自然誌』中公新書、1992)・関 泰志→山田 格
- 2. 水産学：西脇昌治(『鯨類・鰭脚類』東京大学出版会、1995)・大隈清治(『クジラと日本人』岩波新書、2003)→宮崎信之・加藤秀弘
- 3. 水族館学：鳥羽山照夫
- 4. 古生物学：長谷川善和→大石雅之
- 5. 環境科学
- 6. 文献史学・民俗学
- 7. 考古学
- 8. 民族学・文化人類学
- 9. 文学・芸術：C/W・ニコール(『勇魚』文藝春秋、1987)

山田致知先生からの平口宛私信 1963年10月9日付け（前半）

前略 9月7日付でご照会に接しながら お返事が遅くなって大変失礼しました。いつもむずかしいことをお尋ねになるので お返事に窮しますが 今回のご質問も よいお返事ができかねますので あしからず。上腕骨の孔は栄養孔であろうと思います。尾椎体の孔はクジラ類にだけあるもので椎間動脈の脊髓枝または骨膜枝の通路と理解していますが 特別の名称はないと思います。もし必要なら貫通孔(上/下)とでもいえばよろしいのでは。(なお お申越しのような用語集などはないようです)

山田致知先生からの平口宛私信 1963年10月9日付け（後半）

さて 夢半島のとの企画で日本海の鯨についてのシンポジウム企画があり、その参加団体のひとつとして同封のような研究グループを組織することになりました。当グループは以後 日本海産の鯨に関する情報資料を総括する計画ですが よろしかったら ご参加ください。一度お話を伺いたいと思っていますので よろしくお願ひします。

延引おわびかたがた お返事まで。

忽々

山田 致知

1988年8月付文書「日本海セトロジー研究グループの結成」より

構想(第一段落)

日本海時代を象徴する総合研究を企図するさい忘れてはならないものに、そこに住む鯨類の研究があるが、海に依存することの多い日本の国家的特異性にもかかわらず、その基礎研究ないし情報処理の現状は、きわめて貧弱であることを認めないわけにはいかない。

1988年8月付文書「日本海セトロ ジー研究グループの結成」より

構想(第二段落):折しも昭和63年春以来,直江津以西能登半島にかけて,アカボウ鯨科(Ziphiidae)の珍種の異例漂着があい次いだ。日本海産鯨類,とくに中型鯨の情報は,鯨学にとって世界的に重要であるにもかかわらず,その記録はきわめて不満足であって,もしもアカボウ鯨科の鯨が日本海に珍しくないということならば,そのためだけでも緊急に対策を立てる必要がある。

1988年8月付文書「日本海セトロジー研究グループの結成」より

構想(第三段落):わが国には鯨学の専門家も少なくない。え、イギリスのような伝統的な漂着鯨通報の慣習もなく、(沿岸警備隊による)積極的なパトロールも行われないので、英米各国に比べていちじるしく後れをとっているのが実情である。漂着鯨が食用に供されても記録に残らないという現状は、文化国家としても問題だし、水産業界としても賢明な対応とはいえないはずである。たとえば食性のデータなどがむなしく失われるのは問題である。

1988年8月付文書「日本海セトロ ジー研究グループの結成」より

構想(第四段落):このような現状認識にかんがみ、日本海沿岸にせめて地区ごとのニュースに迅速に対応できるような「水際の研究態勢」を組織するのが有意義であろうと判断して、そのようなグループ作りに着手したいと考える。確保される資料や標本類は、今後の研究に資するためにも、散逸を防いで永久的な保存対策を立てる必要があるが、差当り既設の自然史博物館の協力が期待される。また、自然史博物館のない地区では、自治体に対してその新設を勧める刺激になるかもしれない。

1980年代能登の鯨類ブーム

- オウギハクジラ類のあいつぐ水揚げ・漂着。
 - 1982年、「のとじま水族館」の開館。
 - 1982・83年能都町（現・能登町）真脇遺跡におけるイルカ多量出土。
 - 1984年、羽咋市滝海岸にコマッコウ漂着。
 - 1985年七尾市大杉町で中新世層からクジラ化石1体分が「七尾野尻湖友の会」によって発掘。
- * 1988年11月30日付けセト研名簿に様々な分野の研究者やクジラ愛好家が登録されているのは、この年代の出来事によるところが大きい。

真脇遺跡第一次・第二次調査



- 上掲写真：真脇遺跡1982、全景。
- 左掲写真：真脇遺跡1983、I区X I層出土のマイルカ頭蓋骨など。

セト研大会 第1回～第8回

(開催地:北陸4県の範囲内)

- 第1回 1990年5月19日 石川県金沢市 金沢水族館
(1991年3月20日、会誌「日本海セトロジー研究」発行)
- 第2回 1991年5月25日 富山県魚津市 魚津職業訓練センター
- 第3回 1992年7月2日 福井県三国町 三国観光ホテル
- 第4回 1993年6月19日 新潟県上越市 上越市立水族博物館
(1993年12月1日、セトケンニューズレター創刊号発行)
- 第5回 1994年6月18・19日 石川県能登島町 石川県漁業研修センター (1994年12月15日、セト研代表・山田致知氏が逝去)
- 第6回 1995年7月1・2日 石川県金沢市 KKRホテル加賀
(1995年度総会で見玉公道氏が第二代の代表に就任)
- 第7回 1996年6月29日 石川県金沢市 KKRホテル加賀
- 第8回 1997年6月7・8日 福井県三国町 三国観光ホテル
(1997年度総会で平口が第三代の代表に就任)

セト研第4回(上越)大会

1993年6月19日 上越市立水族博物館

写真:20日、上越市立水族博物館前にて



セト研第6回(金沢)大会

1996年6月29日 KKRホテル加賀

写真:30日、西田家「玉泉園」にて



セト研第8回(三国)大会

1997年6月7・8日 三国観光ホテル

写真:8日、三国水族館にて



セト研第8回(三国)大会

1997年6月7・8日 三国観光ホテル

写真:8日、東尋坊にて



セト研大会 第9回～第12回 (北陸4県外、九州で初めて開催)

- 第9回 1998年6月6・7日 福岡県福岡市 マリン
ワールド海の中道
- 第10回 1999年7月17・18日 石川県内灘町 金沢
医科大学
- 第11回 2000年5月27・28日 新潟県新潟市 白山
会館
- 第12回 2001年6月15～17日 新潟県相川町 ホ
テル大佐渡

「研究グループ」から「研究会」へ

- 1997年6月6日現在、個人会員121名（創立時の4倍）、団体会員9名、賛助会員3名、国外会員1名。
- 会員の研究活動も盛んとなったので、もはや「グループ」というよりも「研究会」と称したほうがよいのでは。
- 会員の所在地が全国に及んでいることから、研究集会（大会）の開催地も北陸4県に限らず、全国各地で開催すればよいのでは。
- そこで、1998年が創立10周年にあたることも考慮し、第9回研究会（大会）を福岡市で開催することに。
- 平口の勤務する金沢医科大学では、所属員が会長を担当する学会に開催補助金を出す制度があることから、これによって発表要旨集などの資金を得ることができた。

セト研第9回(福岡)大会

1998年6月6・7日 マリンワールド海の中道



セト研第10回(内灘)大会

1999年7月17・18日 金沢医科大学

写真:17日、特別講演者のアール・リッチモンド氏(アメリカ、海棲哺乳類センター)と座長をする山田格氏(科博)



セト研第10回(内灘)大会

1999年7月17・18日 金沢医科大学



17日研究発表で座長、18日研究発表でコメントする松井章氏(奈文研 平城宮発掘調査センター)



セ卜研第11回(新潟)大会

2000年5月27・28日 白山会館

写真:27日、研究発表会



セト研第11回(新潟)大会

2000年5月27・28日 白山会館

写真:27日、懇親会にて



セト研大会 第13回～第15回

(関東と中国地方で初めて開催)

- 第13回 2002年6月15・16日 東京都新宿区 国立科学博物館分館
- 第14回 2003年6月7・8日 鳥取県鳥取市 鳥取県立県民文化会館
- 第15回 2004年7月3・4日 石川県金沢市 石川県立生涯学習センター

セト研第13回(東京)大会

2002年6月15・16日 国立科学博物館新宿分館

写真:15日、懇親会にて

ジェイムズ・サベール氏(カナダ、マクギール大学)と共に



セト研第13回(東京)大会

2002年6月15・16日 国立科学博物館新宿分館

写真:16日、大会終了後



セト研第15回(金沢)大会

2004年7月3・4日 石川県立生涯学習センター
写真:4日大会終了後にセンター前で





2005年3月24日、能登半島の珠洲の海岸に漂着したオウギハクジラを、山田格氏ら科博チームが調査。

「日本海セトロロジー」から 「日本セトロロジー」へ

- セト研はフィールドの中心を日本海に置きながらも全国的に活動を展開してきた。
- この実態に合わせて、「日本海セトロロジー研究会」を「日本セトロロジー研究会」に再度改称するという意見が強まり、二度にわたる会員アンケート調査の結果をふまえて、2005年6月25・26日に函館市で開催された第16回大会の際の総会において研究会の名称変更が承認された。
- 会誌の名称「日本海セトロロジー研究」を2005年12月30日発行の15号から「日本セトロロジー研究」に改称。

セト研大会 第16回～第20回 (北海道で初めて開催)

- 第16回 2005年6月25・26日 北海道函館市 函館国際ホテル (国立科学博物館動物研究部の山田格氏が第四代の代表に就任)
- 第17回 2006年7月8・9日 東京都新宿区 国立科学博物館分館
- 第18回 2007年7月7・8日 宮崎県宮崎市 宮崎観光ホテル会議場
- 第19回 2008年6月14・15日 石川県金沢市 KKRホテル金沢
- 第20回 2009年6月20・21日 福岡県北九州市 北九州市立自然史・歴史博物館「いのちのたび博物館」

セト研第16回(函館)大会

2005年6月25・26日 函館国際ホテル

写真:26日研究発表会場



セト研第17回(東京)大会

2006年7月8・9日 国立科学博物館新宿分館
写真:8日懇親会、新宿サンパークホテル2階宴会場にて



セト研第18回(宮崎)大会

2007年7月7・8日 宮崎観光ホテル会議場

写真:7日撮影



セト研第19回(金沢)大会

2008年6月14・15日 KKRホテル金沢

写真:15日ポスター発表



セト研第19回(金沢)大会

2008年6月14・15日 KKRホテル金沢

写真:15日大会終了後に橋場町の居酒屋にて
左から平口、松石、ミード、フォーダイス、大石

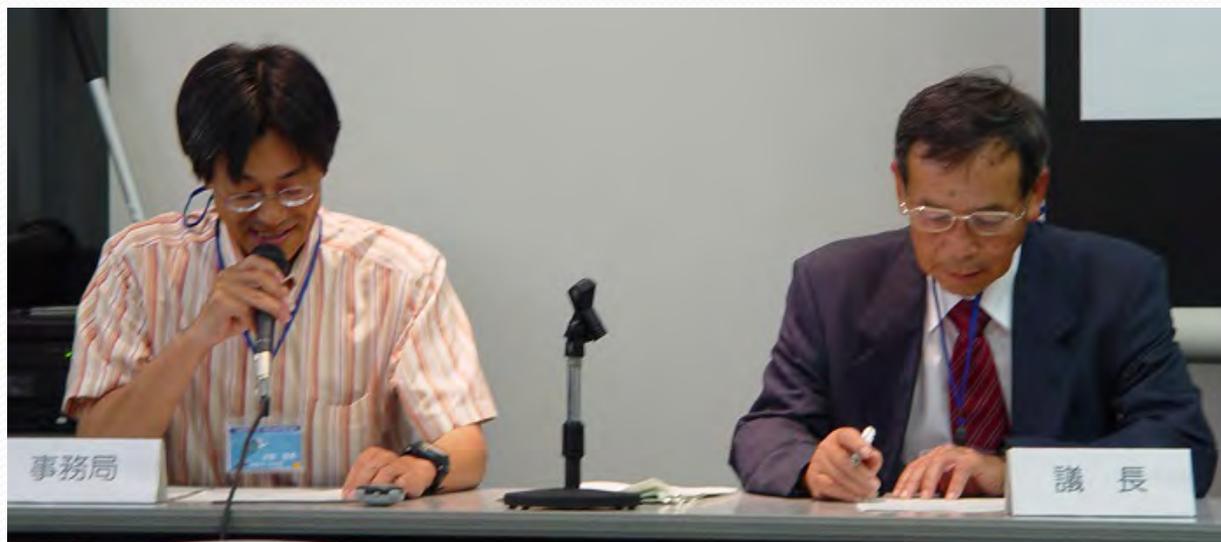


セト研第20回(北九州)大会

2009年6月20・21日

北九州市立自然史・歴史博物館「いのちのたび博物館」

写真:20日総会にて



セト研大会 第21回～第24回 (東北地方と東海地方で初めて開催)

- 第21回 2010年6月19・20日 青森県十和田市 北里大学獣医学部 十和田キャンパス
- 第22回 2011年6月18・19日 愛知県名古屋市 名古屋港水族館
- 第23回 2012年6月2日・3日 宮城県松島町 松島町公民館(マリンピア松島水族館)
- 第24回 2013年5月25日・26日 富山県富山市 富山市科学博物館

セト研第21回(十和田)大会

2010年6月19・20日 北里大学獣医学部 十和田キャンパス
写真:19日懇親会会場にて



セト研第22回(名古屋)大会

2011年6月18・19日 名古屋港水族館

写真:18日、研究発表会



セ卜研第22回(名古屋)大会

2011年6月18・19日 名古屋港水族館

写真:18日、名古屋水族館見学





2011年12月2日、カナダのバンクーバーで開催された国際海棲哺乳類学会で、セト研活動の成果をポスター発表。



2011年12月2日、バンクーバーで開催の国際海棲哺乳類学会に日本から参加した人たち

セト研第23回(松島)大会

2012年6月2日・3日 宮城県松島町 松島町公民館
写真:6月3日、マリンピア松島水族館にて



震災翌日の水族館正面のようす (3/12 撮影)

津波は矢印の高さまで到達しました。

セト研第24回(富山)大会

2013年5月25日・26日 富山市科学博物館

写真:26日、富山市科学博物館前にて



セト研大会 第25回～第27回 (四国で初めて開催)

- 第25回 2014年5月24日・25日 愛媛県愛媛市 愛媛大学
- 第26回 2015年7月18日・19日 秋田県八峰町 あきた白神体験センター
- 第27回 2016年6月25・26日 新潟県長岡市 長岡市寺泊文化センター

セト研第25回(松山)大会

2014年5月24日・25日 愛媛大学

写真:24日、CMES施設見学のために集合



セト研第26回(あきた白神)大会

2015年7月18日・19日 八峰町 あきた白神体験センター

写真:18日、懇親会にて



セト研第27回(寺泊)大会

2016年6月25・26日 長岡市寺泊文化センター

写真:24日、ホテル住吉屋の夕食



創立30周年に向けて

- セト研は2年後の2018年に創立30周年を迎えます。
- それにふさわしい企画を立てて、いっそうの発展を目指しましょう。